

建築工学科の JABEE 認定に対応する『育成すべき技術者像と学習・教育到達目標』について

2020.4.1.

本学科は、2018 年度に JABEE（日本技術者教育認定機構）の予備審査を受審し、教育プログラムの JABEE 暫定認定を受けています。JABEE は、理学、工学、農学系の高等教育機関における技術者教育プログラムが世界水準を満たすことを審査し、認定する第三者機関です。本学科では今後、2021 年度開始を目標に、UNESCO-UIA 建築教育憲章に対応する大学院までの 6 年間教育を視野に入れた教育プログラムの改善を進めています。

育成すべき技術者像と学習・教育到達目標

<本学科が考える“育成すべき技術者像”>

歴史と文化、科学への深い造詣と教養のうえに、建築の技術、美、デザインの専門知識と力を培い、SDGs、建築生産、マネジメントの視点から新たな社会を創造的に切りひらく建築の専門家を輩出する。

<本学科の学習・教育到達目標>

本学科の学習・教育到達目標は、次の 4 つのカテゴリー、A ～ J の 10 項目により構成されています。

- ・ 基本的な人間力やものごとのとらえ方、学ぶ姿勢 (A, B, C)

A 学びつづける力を養い豊かな教養を身につける

豊かな教養、歴史や文化、自然科学、社会科学への深い造詣をもち、建築の学びを継続し、建築の専門家としての責任と社会的役割を理解し実践する。

B 想像する力と考える力を養う

言語能力をみがき、想像する力を高めて、眼前の事象だけではない未だ見ぬ気づきを獲得し、身体的なりアルな感覚を拠り所に、これを解決する力をもつ。

C 普遍と固有を意識し多様な視点をもつ

地球規模と地域の風土文化、技術、空間、時間など多様な切り口において普遍性と固有性を意識し、問題を多角的にとらえることにより新たなものの見方を獲得する。

- ・ 技術、美、デザインの専門知識と基礎力 (D, E)

D 建築の専門知識と技術を修得する

建築の専門知識と技術を身につけ、基礎から先進のテクノロジーまでを使いこなし、技術力、構想力、計画力、デザイン力を磨き、表現する。

E 『目を養い手を練れ』を実践しつくる手を鍛える

優れた先達を範として、美的感覚を身につけ、つくりだす手と技を鍛え、新たな創造を身体奥底から引き出すための技能を練り、身につける。

- ・ 新たな社会を目指す力 (F, G, H)

F SDGs を意識し専門能力を生かして社会を変革する

持続可能でよりよい世界を目指す国際目標 (SDGs) に向き合い、実社会における課題をありだし、専門能力をもってこれを解決することで、新たな世界を構築する。

G 建築の生産としてのあり方を探究し実践する

ものの在り方とものづくりの在り方 (建築の生産) を構想し、秩序を構成する。建築の専門家としての職能を理解し、社会をイノヴァティブに変革してゆく力を養う。

H マネジメント力により新たな価値を創造する

事実を正確にとらえ新たなしくみをつくりだす力 (マネジメント力) を発揮し、状況を打開し、個人やチームまたプロジェクトに価値を創造する。経営管理という視点も醸成する。

- ・ 社会に貢献する専門家としての在り方 (I, J)

I 専門家との協働により実践的に創造する力を養う

異分野の専門家と協働し、高い専門的知見を交わすことにより、問題を実践的、創造的に解決する力を養う。個の力と協働により高いパフォーマンスを発揮する力を養う。

J 専門家として人びとと共に社会を切り開く力を培う

専門的な知識と技術をもち、多様な考えを理解し相互理解を育む力をもつことで、多くの人びとをサポートしまたそれゆえリードして新たな社会を構築する。